

獣 医 療

いつでも、どこでも

秋葉山のふもとの動物病院
小島動物病院アニマルウェルネスセンター
Kojima Animal Hospital Animal Wellness Center
<https://animal-wellness.co.jp>

動物の皮膚がんサポートセンター
Skin Cancer Support Center
<https://skincancer-sc.animal-wellness.co.jp/>

TEL (0250) 24-2223
〒956-0832 新潟市秋葉区秋葉2丁目14-68

動物と人の幸せを祈って。



D
X

2025年8月25日

院長ごあいさつ

本院が提供する動物医療の根底には、「人と動物の絆を大切にする」という一貫した理念があると考えています。この理念のもと、私たちは日々の診療を単なる処置ではなく、飼い主の方々と共に「最善の答え」を探し出す対話のプロセスとして位置づけてきました。

その中核にあるのが、**PCAP (Pathology Centered Animal Practice)** です。病理診断に基づき、「病 (ヤマイ) の理 (コトワリ)」を明らかにすることで、獣医師・看護看護職・飼い主の間に共通理解を生み、共創的な意思決定が可能になります。これは、単なる技術革新ではなく、動物医療における倫理と信頼のかたちを見直す営みでもあります。

また、私たちは、日々蓄積される臨床・病理データを教育資源として活用し、院内スタッフの育成だけでなく、他院や飼い主の方々への情報提供・教育にも取り組んでいます。これは、獣医療の現場を「学び」と「共有」の場へと昇華させ、社会的価値を持つ医療インフラへと進化させていく挑戦です。

こうした取り組みを通じて、本院は「**学習する病院**」「**発信する病院**」「**創造する病院**」という三段階のDX戦略を推進しています。デジタル技術を活用することで、私たちは診療・教育・社会との接点を再構築し、まだ誰も見たことのないような価値の創出を目指しています。



院長(代表取締役) 小嶋 大亮
2025年8月25日

有限会社 小嶋動物病院（新潟市、秋葉区） Since 1979



アニマルウェルネスセンター

皮膚がんサポートセンター

企業理念

動物との絆を通じて、
「幸せ」、「人」、「社会」、「明日」を創る

幸せを創る

- ・「**ヤマイのコトワリ**」にこだわる：**病理学に基づいた正確な診断にこだわり**、オーダーメイドにより最適で飼い主様が満足できる治療の道を示します。

人を創る

- ・「**自覚と責任**」にこだわる：社会人として自覚と責任を持ち、プロの技術や知識と魅力ある人間力の向上を両輪とした、**プロ集団（人）を創ります**。

社会を創る

- ・「**地域と世界**」にこだわる：動物の健康を守ることで幸せな家庭創りをサポートし、家族が楽しく過ごせる自然豊かな地域を愛することで、社会に貢献できる**オンリーワンのモデルケース**を創ります。

明日を創る

- ・「**いま**」にこだわる：**「いま」の積み重ねこそが将来の「幸せ・人・社会」創りに貢献できるもの**と信じます。

動物病理と臨床のシナジーで
幸せな社会の明日を創る



病理学を中心とした動物の診療 (Pathology Centered Animal Practice)

① 人材育成の体系化と情報資源化

階層別の人事評価制度・教育体制を基盤とし、学会参加やキャリア研修を通じた自律的学習を促進。さらに、クラウドを用いた症例画像・動画の一元管理およびAIの導入により、病理と臨床の知見を可視化し、教育資源としての活用を進めている。

② 高度専門診療体制の整備

病理診断と連動する診療分野において、内視鏡・画像診断・低侵襲外科への設備投資を実施。皮膚科、消化器科、エキゾチックアニマル診療科、腫瘍科といった専門診療科の整備・標榜を進め、地域における専門医療のアクセス性を高めている。

③ 業界における認知向上と外部連携

人材難が深刻な業界においても、当院の教育体制が採用・定着に寄与しており、教育機関との連携や紹介が進むとともに、学会・講演等を通じて外部発信力を強化している。

DX戦略

① 医療・教育データの高度活用による社会的価値創出

長年蓄積した病理・臨床データをデジタルアーカイブ化し、動画教材やAI学習データとして再構成。これにより、獣医療従事者や飼い主への疾患理解促進、診療の質向上を図り、動物医療の水準向上に寄与する。

② 診療・教育活動プラットフォームの構築による外部連携強化

クラウド型診療支援システムと動画教育コンテンツを統合し、院内外のスタッフや教育機関と知見を共有。さらに、YouTube・SNS・学会発表を通じて理念や症例を発信し、全国的なネットワークと標準化を推進する。

③ 内部プロセスの最適化と知識継承による継続的価値提供基盤の確立

症例画像・動画・診療記録をクラウドで一元管理し、AI解析を組み合わせることで診療・教育の効率化と精度向上を実現。これにより、人材不足リスクを軽減し、長期的な診療提供体制を維持する基盤を整備する。

具体的な取り組み

① 病理・診療データの臨床知化と体系化

当院が保有する過去の病理診断レポート、臨床記録、画像、動画を体系的に収集・整理し、「ヤマイのコトワリ」を科学的に可視化する教育コンテンツを構築。診療に関わる全関係者が同一情報を基に議論・判断できる基盤を形成している。

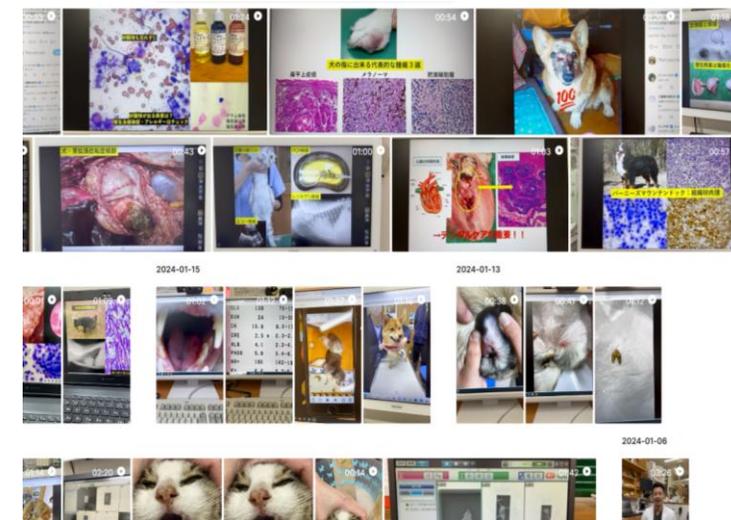
② データ活用による教育プログラムの高度化

獣医師・動物看護師・飼い主それぞれに合わせた教材（動画・図解・事例集）を生成し、教育カリキュラムへ導入。新人獣医師や中堅スタッフの自律的な学習を促進するとともに、外部病院や教育機関との教材共有による広域人材育成を推進。自社AIの教師データ整備も進めている。

③ 診療データ可視化による改善サイクルの確立

診療実績データや問い合わせ履歴を集約・可視化し、診療品質や業務プロセスの改善に活用。データ分析結果を組織内で共有し、日常診療や教育活動の質向上に反映させるPDCA型の改善サイクルを実装している。

教育コンテンツの構築



自社AIの教師データ整備

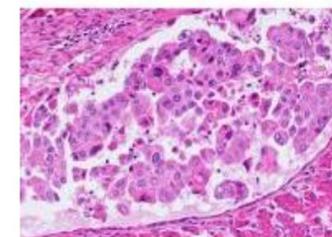
小島動物病院 AWC

- ホーム
- Net情報チャット
- 検査マニュアル
- 偉人名言集

小島動物病院AWC AIシステム

病理学[PCAP]を中心とした動物の診療

PCAPとは[Pathology Centered Animal Practice]



小島動物病院AWCはPCAPで動物の健康と福祉に貢献します

DX推進体制

当院では、DX戦略の遂行に向け、経営から現場・外部連携まで一貫した多層的なDX推進体制を構築し、単なるシステム導入にとどまらず、理念とデジタル技術の融合による持続的変革を推進する。

① 経営層主導のDXガバナンス

代表取締役院長が最終責任者を務め、副院長とともに理念を軸としたDX方針を策定・共有。取締役会で承認し全体戦略に展開。

② 実務レベルでの調整・推進

マネージャーが中心となり、部門横断的なDXタスクの整理と推進計画の具体化を担当。定期的な進捗レビューや課題抽出を通じて、施策の優先順位付けと実行をリード。技術導入に関しては社外ITパートナーと連携しながら現場との橋渡しを担う。

③ 現場実装・改善チーム

DX関連業務に関わる主要職員として、動物看護師を中心とした現場DX実装チームを編成。診療・受付・看護といった日常業務の中にデジタルツールを取り入れ、改善点の抽出や運用フィードバックを実施する。また、定期的な院内研修会を通じて現場全体のDXリテラシーの底上げも行っている。

④ 外部協業体制

IT・組織改革・人材育成などについては外部パートナーと連携し実施する。

DX推進体制

当院では、DX戦略の中核を担う人材を「医療人」かつ「変革の担い手」と位置付け、院内外の育成と確保を両輪として推進する。これに基づき、以下の三つの視点で育成・確保方針を定めている。

① 院内人材のDXリテラシー強化

院内のスタッフ（獣医師・看護師・トリマー）を対象に、DX推進に必要なデジタルスキルやデータリテラシーを段階的に習得させる仕組みを整備。

- ・年3回以上のDX関連セミナー・講習会への計画的参加
- ・月1回の動物医療に関するデジタル化勉強会の実施
- ・月1回の外部講師によるリスクマネジメントワークショップの開催

② 資格取得・専門スキルの取得支援

社内人材が、動物医療×デジタルの専門家としてスキルを高めるため、以下の制度を整備。

- ・獣医臨床・病理学会のセミナー・認定制度等への参加支援
- ・日本生産性本部主催の人材育成セミナー参加支援

③ 持続的な人材確保体制の構築

外部からの人材確保については、DX方針と経営理念を明確に打ち出すことで、理念共鳴型の採用・協業モデルを推進。新卒・中途採用に加えて、以下を導入予定。

- ・リスキリング機会の提供
- ・DX推進スタッフのローテーション制による多能化
- ・地元専門学校・大学との連携による教育連携プログラムの計画並びに実施

ITシステム環境の整備

当院では、DX戦略を安定的かつ継続的に推進するため、「教育・診療・発信」の三軸におけるDX基盤の強化をITシステム環境整備の主眼としている。単なる業務効率化にとどまらず、医療インフラとしての機能性・安全性・拡張性の確保を目的に、以下の取組を実施している。

① 診療業務のデジタル化と効率化

クラウド型電子カルテ（ヤマシヨウシステム連携）の導入・更新により診療情報の一元管理と多職種間のリアルタイム連携を実現。自動精算機導入による受付・会計業務の省力化と待ち時間削減、感染症対策を推進。診療記録の入力・分析に対応するAI連携インターフェースも導入中。

② 災害対応を見据えたBCPのIT化

診療継続性確保のため、非常用電源として電気自動車を活用予定。通信環境は固定回線とモバイル回線の併用による冗長化を実施し、災害・障害時の業務停止リスクを低減。

③ ITガバナンスとサイバーセキュリティ強化

IT資産の定期棚卸と更新計画策定により老朽機器利用リスクを回避。全スタッフへの年1回以上のセキュリティ教育、標的型攻撃対応訓練、多要素認証導入を推進。外部ベンダー契約においては個人情報保護や脆弱性対応の条項を明確化。

④ レガシーシステムからの脱却と拡張性確保

新規導入システムは将来のAPI連携・クラウド対応を前提とした構成とし、AI・IoT技術の活用を見据えた大容量ストレージや高性能端末への段階的更新を実施。

自動精算機



電気自動車



DX戦略の達成指標

【定量指標】

- ① 医療品質の向上に関する指標
 - ・病理診断付き診療件数の前年比：+10%以上
- ② 教育・発信に関する指標
 - ・ブログ・動画教材の年間作成本数：24本以上
 - ・院内研修実施回数：12回/年（毎月1回）
 - ・学会発表数・論文化：年間3件以上
- ③ 業務効率の向上に関する指標
 - ・自動精算機利用率：来院者の80%以上
 - ・定型業務のIT自動化数（RPA・AI導入含む）：年3業務以上

【定性指標】

- ① 診療における共創型医療の実現度
 - ・飼い主・スタッフ・獣医師の三者が「ヤマイのコトワリ」に基づき治療方針を選択する場面が診療記録に残されているかどうか
- ② 教育コンテンツの質と波及性
 - ・教材活用後のアンケート評価（分かりやすさ・実務での活用度）
 - ・院外スタッフ・飼い主からのフィードバック件数および改善提案の反映数
- ③ DXに対する職員意識の変化
 - ・年次DX理解度アンケート（満足度・課題認識の明確化）

病理診断の説明風景

